

第十七回名古屋名駅



第17回名古屋名駅薪能の開催にあたって

東海旅客鉄道株式会社
取締役会長 葛西 敬之

名古屋の夏を彩る名古屋名駅萬能の開催を今年も迎えられることを、心よりお祝い申し上げます。

大都市「名古屋」の玄関口、JR 名古屋駅において、日本の伝統芸能である「能」が演じられる非常にユニークなこの催しも着実に回を重ね、今年で 17 回目であります。これもひとえに財団法人観世文庫や名古屋名駅能実行委員会をはじめ、地元の皆様方のご尽力によるものと思います。

また、併せて開催される名古屋駅構内全国学生能楽コンクールも今年で10回目となり、名駅新能が幅広い世代の皆さんに親しまれていることは、協賛する一企業として大変嬉しく存じます。

この大変意義深い行事が、今後多くの皆様に親しまれることを期待いたします。

「みどころ」伊勢物語に拠り、杜若の精をシテにしてまわせるのが主題です。本文では、シテは杜若の花の精とはつきり名乗っているのですが、先へゆくと、業平と二条ノ后高子との恋物語や業平の歌が重なつて一寸混乱しているよう思えます。その上、花の精の着る唐衣は、業平と恋愛関係にあつた二条ノ后高子の御衣であり、初冠は業平の形見の品です。ですから、憎の夢の中では、その舞い姿は、ある時は杜若の精に、ある時は貴賀な后に、また業平その人とも映ります。更にその時代は、業平は歌舞の菩薩の化身であるとも信じられていたので、三重四重の美しい映像が重なつてゐると思えばよいでしょう。夢物語にしたのは、なかなか巧みな構成です。

中入なしの一場物ですが、夢幻能なのに二場構成になつていないので珍しく、まだ世阿弥の複式夢幻能の形式が確立していないかった時期の作品とも考えられます。ともあれ、所は艶やかに杜若の咲き競う名所八橋、時はさわやかな初夏、王朝文化へのあこがれから、幽玄の美学によつて組み立てられた、紫のファンタジーといつた能で、短篇ながら佳作です。

【あらすじ】諸国一見の僧が都から東国へと志し、旅を重ねて三河国（愛知県）へやつて来ます。とある沢辺に杜若の花が美しく咲いているので、思わず見とれています。そこへ、一人の里女が現れ、ここは八橋という古歌にも詠まれた名所であります。そこで、「かきつばた」の五文字を各句の頭において、「からころもきつつなれにし づましあれば はるばるきぬる たびをしておもふ」という歌を詠んだという故事を教えてくれます。その上、旅僧を自分の庵に案内し、泊ってゆくようになります。やがて、女は初冠に唐衣を着て、その姿を見せにくるので、僧は驚いて素性を尋ねます。女は自分が杜若の精であるとうち明かし、また葉平は歌舞の菩薩の化現であるので、その詠歌の功德により非

【あらすじ】東国の人々が都貢物に出稼生なればに清水寺に着き、爛漫と咲くたその時の桜花に見とれていると、咸風堂たる武将姿の坂上田村麻呂の靈が現れます。そして勅命を受け、鈴鹿山の賊を討伐すべく車を進めたが、合戦の最中に千手觀世音が出現し、その助勢によつて、敵をことごとく滅ぼした有様を物語り、これも觀音の仏力であると述べます。

水掛聟

水掛聟

見兼ねた男は智を待ち伏せて意見をしますが、忠告はやがて口論となり、互いに身勝手さで持論を開く。そこへ騒ぎを聞きつけ仲裁をやってきた娘までも巻き込んで……。農耕民族であつた我々の思い(身勝手さ)がよく表現されている作品で、「我田引水」や「水掛謡」の語源と教訓が盛り込まれた作品となっています。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt. He is looking slightly to his left.

シテ方觀世流能楽師
HIBADA KAN-DO

二十六世觀世宗家
二十六世清和 KIYOKAZU

番組			
仕舞	KO	CHOU	
「胡蝶」			
シテ	胡蝶の精	久田三津子	
「阿漕」			
シテ	阿漕の靈	觀世芳伸	
地謡	上田貴弘	坂口貴信	
	久保信一朗	伊藤裕貴	
「田村」			
TA MURA			
舞囃子	坂上田村高の靈	久田勘助	
囃子方	笛	腰田六郎兵衛	
	小鼓	久田舞一郎	
	大鼓	河村眞之介	
地謡	下川宣長	久保信一朗	
	山中雅志	松山幸親	
	井上裕之真		
MIZU KAKE MUKO			
「水掛聟」			
シテ	聟	井上松次郎	
アド	男	佐藤友彦	
アド	女	鹿島俊裕	
後見		大橋則夫	
KAKITSU BATA			
「杜若」			恋之舞
シテ	杜若の精	觀世清和	
ワキ	旅僧	福王茂十郎	
囃子方	笛	腰田六郎兵衛	
	小鼓	久田舞一郎	
	大鼓	河村總一郎	
	太鼓	加藤洋輝	
後見	上田公威	坂口貴信	
地謡	觀世芳伸	上田勘助	
	下川宣長	久田勘助	
	山中雅志	松山幸親	
	伊藤裕貴	岡根祥丸	

（企画・久田勘画事務所）